

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第14回 余裕深度処分安全評価分科会 (F12SC) 議事録

1. 日時 2006年12月5日 (火) 13:30~16:00
2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 川上 (主査), 新堀 (副主査), 山本 (幹事), 石黒, 加藤, 河田, 河西,
杉山, 鈴木, 田村, 中居, 樋口, 宮原 (13名)
(代理出席委員) 大間 (西村委員代理) (1名)
(欠席委員) 石田, 小峯, 木村 (3名)
(常時参加者) 飯村, 佐久間, 前田, 宮脇 (4名)
(欠席常時参加者) 磯部, 樋口 (奈), 脇 (3名)
(発言希望者) 高瀬, 前田 (2名)
(傍聴者) 五十嵐, 佐藤, 神徳, 杉山, 田中, 山田 (6名)
(事務局) 厚
4. 配付資料
配付資料
F12SC14-1 第13回余裕深度処分安全評価分科会議事録(案)
F12SC14-2 標準委員会の活動概況
F12SC14-3 標準委員会中間報告について
F12SC14-4 標準案の見直し・書き分け方針
F12SC14-5 分科会審議工程 (案)

参考資料

- F12SC14-参考1低レベル放射性廃棄物埋設に関する安全規制の基本的考え方 (中間報告)
F12SC14-参考2 L L W埋設に係る安全評価手法 (骨子案)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 17名の委員中, 開始時点で代理出席を含め14名の委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (12名以上) を満足している旨の報告があった。

また, 高瀬 敏郎 氏 (三菱マテリアル (株)) 及び前田 敏克 氏 (経済産業省 原子力安全・保安院) より発言希望者として, 並びに五十嵐 省一 氏 (東電環境エンジニアリング (株)), 佐藤 立 氏 (株) 大林組, 神徳 敬 氏 (石川島播磨重工業 (株)), 杉山 大輔 氏 (財) 電力中央研究所, 田中 真弓 氏 (鹿島建設 (株)) 及び山田 基幸 氏 (財) 原子力環境整備促進・資金センター) より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されており, 主査がこれを了承している旨, 紹介された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録について, 承認された。(F12SC14-1)

(3) 標準委員会の活動概況

事務局より, F12SC14-2に沿って, 標準委員会の活動概況について紹介された。

(4) 標準委員会・専門部会での中間報告の結果報告

F12SC14-3に沿って, 第25回標準委員会(10/11開催)及び第24回原子燃料サイクル専門部会(10/19開催)における標準案の中間報告内容及びその時のコメントについて紹介された。

委員会及び専門部会のコメントについては, 現状の標準案の検討内容・進め方における指摘ではなかったため, 今後, 取りまとめの段階でコメントに対する検討をしていくことが確認された。

(5) 安全規制の基本的考え方・L L W埋設に係る安全評価手法について

原子力安全委員会 低レベル放射性廃棄物埋設分科会での審議状況について, F12SC14-参考1及びF12SC14-参考2 (低レベル放射性廃棄物埋設分科会資料の埋分第7-1号及び埋分第8-2号) に沿って, 紹介された。

安全評価の考え方及び評価シナリオ分類等は, 現在継続して審議されているため, 今後, その方針・内容に沿って, 標準案を検討していくことが確認された。

(6) 標準案 (中間とりまとめ) 見直し方針について

F12SC14-4に沿って、標準案の本体・附属書・解説の書き分け方針及びこの方針に基づく地下水シナリオの記載案についての纏め方の説明が行われた。この方針に基づき、JIS-Z8301:2005をベースに標準案を見直していくことが確認された。

主なコメント

- ・ 本資料の本体、附属書等の定義で引用しているJIS-Z8301は2000年版ではなく、2005年版が最新であるため、2005年版をベースにする必要がある。
- ・ 標準案の構成は、2005年版で定義されているように、本体+附属書（規定）+附属書（参考）+解説となり、解説は、本体及び附属書の記載事項を解説することが基本である。

(7) 今後の分科会審議スケジュールについて

F12SC14-5に沿って、今後の標準案の制定までの全体工程（案）について紹介された。

なお、上記（6）項の取り纏めの方針に従った見直しは、来年の3月頃を目途に実施予定であることが確認された。

6. 今後の予定

次回分科会日時は1/30(火) 13:30～の予定。場所は別途連絡。

以上